

令和2年度ながの環境パートナーシップ会議活動報告書

活動の概要

令和2年度は、長野市の環境ビジョンの実現に向け「つなぐ・伝える・行動する」を行動指針とし、プロジェクト、広報活動などに取り組みました。また、平成29年度に見直しを行った、本会の行動指針である「アジェンダ21ながの-環境行動計画-」に基づき、事業者・他団体との連携など、新たな協働による環境活動を展開しましたが、新型コロナウイルス感染拡大により活動に大きな影響がありました。

1 各プロジェクトの活動

(1) 令和2年度の各プロジェクトの取り組み

①	生ごみ削減・再生利用プロジェクト	活動報告書のとおり
②	市民の森づくりプロジェクト	活動報告書のとおり
③	太陽エネルギー普及促進プロジェクト	休会
④	聖山自然復元プロジェクト	休会
⑤	子どもの環境学習支援プロジェクト	活動報告書のとおり
⑥	ながのカーボンオフセットプロジェクト	休会
⑦	小生物の育成環境保全プロジェクト	活動報告書のとおり
⑧	生態系豊かな、水に親しめる川づくり（水環境保全）プロジェクト	活動報告書のとおり
⑨	ぼんすけ育成プロジェクト	退会
⑩	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト	活動報告書のとおり
⑪	田中さくら公園づくり&里山づくりプロジェクト	活動報告書のとおり

(2) プロジェクトサポーター制度について

5つの各プロジェクトとサポーター事業者が次のとおり協働による事業を展開しました。

※プロジェクトサポーター制度とは…

事業者の参画をより一層促していくため、プロジェクト活動に協働・支援・共感等いただける事業者が、直接、プロジェクト活動に、人的・活動資金・活動場所などを支援いただき、協働体制による継続的な環境活動の展開を図ることを目的に平成28年度に当制度を創設しました。

※協働事業の状況は次のとおりです。

【協働事業の状況】

プロジェクト名	サポーター事業者名
生ごみ削減・再生利用	長野市委託浄掃事業協同組合
子どもの環境学習支援	直富商事株式会社
小生物の育成環境保全	コマキ工業株式会社
生態系豊かな、水に親しめる川づくり（水環境保全）	株式会社公害技術センター
ぼんすけ育成（退会）	信陽食品株式会社（協働終了）

(3) 信州大学工学部「地域環境演習 I 2020」の受け入れ（中止）

信州大学工学部の「自分でPDCAサイクルを機能させて行動できる人材」の養成を目指し実施する「地域環境演習 I 2020」の受講生を、各プロジェクトチームで受け入れ、協働による環境活動を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染対策のため中止となりました。

2 ながの環境パートナーシップ会議全体での活動

(1) 第10回ながの環境団体大集合（中止）

新型コロナウイルス感染対策のため中止となりました。

3 広報

(1) ホームページの運用

- ・各プロジェクトの出前講座やイベント等の予定及び活動報告などを掲載
- ・他団体などから情報提供されたイベント等を掲載

(2) 令和元年度活動成果報告書「手をむすんで」を発行

ニュースレター「手をむすんで」に代わる本会の活動を情報発信していくため、新たに令和元年度のながの環境パートナーシップ会議活動成果報告書「手をむすんで」を発行し、会員や関係機関にPRしたほか、新規会員の勧誘時に活用いたしました。

【規格】 (詳細版) 表紙4P 本文28P 中綴じ仕上げ
(配布版) A3二つ折り

- 【内容】
- ・ながの環境パートナーシップ会議の案内
 - ・令和元年度運営方針
 - ・ながの環境パートナーシップ会議活動成果報告
 - ・プロジェクトの活動成果報告
 - ・信州大学工学部地域環境演習の報告

【支援団体】 発行に際し、長野市地球温暖化防止活動推進センターの支援をいただきました。

(3) イベント等への参加

① 信州環境フェア2020（2021年夏に延期）

② ながの環境フェア2020（中止）

★代替イベント「ながのエコウィーク」

～ごみ減量・リサイクル、そしてSDGsに取り組もう！～（不参加）

【日時】 令和2年9月27日（日）～10月4日（日）午前10時00分～午後4時00分まで

【会場】 長野市 リサイクルプラザ

【内容】 活動展示、体験教室等

販売、模擬店など

その他の催し

(4) 電子メール及びfacebookの活用

電子メールにて本会会員、関係機関及び長野市役所職員宛へ各プロジェクトチーム等が開催するイベントの情報発信をしています。また、facebookのページを作成し、会員以外の方にも情報発信を行っております。

4 他団体との連携

(1) 「ライトダウンキャンペーン2020 in ながの」に参加協力

本会は、ライトダウンながの実行委員会の構成団体として、温暖化防止・CO₂削減の啓発活動に協力しました。なお、実行委員会としてのキャンペーン活動は、令和2年度で終了しました。

【キャンペーン期間】 10月23日（金） 18:00～20:00

【会場】 長野駅善光寺口駅前広場

(2) 事業所・環境保全団体との活動の連携

【生ごみ削減・再生利用プロジェクト】

住民自治協議会と長野市生ごみ減量講座を共催しました。長野市委託浄掃事業協同組合に協力していただき収穫祭を開催しました。

【市民の森づくりプロジェクト】

環境保全研究所との協働にて「環境保全研究所飯綱庁舎周辺の森の整備」を令和2年度より始め、環境保全研究所との協力連携が進みました。

【子どもの環境学習支援プロジェクト】

「国際ユース環境会議」を、実行委員会、参加スタッフ、支援組織との協力により継続して開催しました。

【小生物の育成環境保全プロジェクト】

オオムラサキ繁殖地での活動を、住民自治協議会及び他の保全団体を含めて組織された連絡会で情報共有しながら、計画的な保全と環境学習会等を実施しました。

【ゴマシジミ保護・育成プロジェクト】

長野市開発公社と長野市霊園での保護活動を行いました。

浅川小学校とワレモコウの育苗・植栽を行いました。

(3) 長野市環境子どもサミットに参加協力

子ども達が環境問題を理解し、地球環境について深く考え、今後の活動を契機となる場を提供するため、毎年環境子どもサミットが開催されています。本会は、主催者である同サミット実行委員会の構成メンバーとして、運営の一翼を担いました。

なお、新型コロナウイルス感染対策のため、参加者の規模を縮小（120名）し、例年行われていた各団体のブース展示と取り止めたため、P会議としての参加はありませんでした。

【開催日時】 令和2年10月25日（日） 午前10時～午後0時30分

【場 所】 長野市勤労者女性会館しなのき

【参加者数】 1人（実行委員として）

(4) 他の環境団体等への周知

令和元年度活動成果報告書「手をむすんで」やパンフレットを個人や事業所などに配付をしました。

また、各新聞に記事として取り上げられるなど環境活動をPRしました。

5 会議

(1) 通常総会

日 時：令和2年8月6日（木） 午後6時から7時10分まで

会 場：長野市ふれあい福祉センター 5階 大ホール

出席数：出席者数106（出席者16+委任状90 会員数181）

内 容：令和元年度活動報告、収支決算報告、監査報告について

令和2年度運営方針（案）、活動目標・活動計画（案）、収支予算（案）について
役員を選任について

(2) 理事会

ながの環境パートナーシップ会議の運営等について協議するため、理事会を8回開催しました。

第2・7回の理事会では、プロジェクトリーダーとの合同会議を開催しました。

また、第3回の理事会について、電子メールを用いたみなし決議としたことで、業務の効率化を行いました。

回数	開催日時	参加者数	備考
第1回	6月11日（木） 18:00～	7人	
第2回	7月2日（木） 18:00～	12人	合同会議
第3回	7月22日（水）	8人	みなし決議
第4回	11月12日（木） 18:00～	6人	
第5回	12月10日（木） 18:00～	9人	
臨時	2月9日（火） 18:00～	8人	
第6回	4月15日（木） 18:00～	6人	
第7回	5月13日（木） 18:00～	7人	合同会議

(3) 各プロジェクトチームのミーティングの開催

各チームで随時開催しました。

6 市政等への参画

審議会等名称	会員名
長野市地球温暖化防止活動推進センター運営委員 長野広域連合ごみ処理手数料審議会委員 豊かな環境づくり長野地域会議運営委員	金井 三平
長野市環境審議会委員	赤羽 和春
長野市健康増進・食育推進審議会委員	佐藤 敏夫
長野市廃棄物減量等推進審議会委員	河西 弘明
長野県緑の基金理事	片桐 勝治
長野市環境こどもサミット実行委員会委員	小山 勝宏

7 その他

(1) 寄附

令和3年1月29日、長野卸売市場協同組合様から本会へ寄附金の贈呈がありました。

【内容】長野卸売市場内の約80の事業所で作る同組合は、市場内で出た古紙を原料にトイレットペーパーを製造し、各事業所に販売しています。このたび、同組合からこのトイレットペーパーの売上金の一部を市内の環境保全活動に役立ててほしいと本会に寄附していただきました。

【寄附金額】58,300円

(2) 会員

令和3年5月末現在の会員数：170（令和2年5月末：182）

(3) ながの環境パートナーシップ会議への年間活動参画者数

平成23年度：	4,116人
平成24年度：	4,176人
平成25年度：	3,638人
平成26年度：	3,566人
平成27年度：	3,766人
平成28年度：	4,112人
平成29年度：	4,629人
平成30年度：	4,842人
令和元年度：	4,588人
令和2年度：	1,814人

令和2年度活動報告書		ながの環境パートナーシップ会議 [総括表]	
ビジョン	山にみどり・川に清流・谷に風・空の星 自然と和して発展するまち・人の暮らし みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの		
基本方針	環境問題に関わる人や団体を結び(つなぐ)、情報を共有する(伝える)し、共に活動(行動する)する役割を担うことにより、環境保全に向けたネットワークを築き、地球環境問題へと視野を広げながら、地域から地球規模に広がる環境保全活動を推進し、環境ビジョンの実現を目指していく。		
活動方針	①アジェンダの推進 ②協働の拡大と連携強化 ③広報ツールとして活動成果報告書「手をむすんで」を刊行 ④民間団体助成金の活用を推進		
実施プロジェクト等	①	生ごみ削減・再生利用プロジェクト	※会員数:20
	②	市民の森づくりプロジェクト	会員数:24
	③	太陽エネルギー普及促進プロジェクト	会員数:10
	④	聖山自然復元プロジェクト	会員数:5
	⑤	子どもの環境学習支援プロジェクト	会員数:2
	⑥	ながのカーボンオフセットプロジェクト	会員数:2
	⑦	小生物の育成環境保全プロジェクト	会員数:36
	⑧	生態系豊かな、水に親しめる川づくり(水環境保全)プロジェクト	会員数:9
	⑨	ほんすけ育成プロジェクト	会員数:9
	⑩	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト	会員数:1
	⑪	田中さくら公園作り&里山づくりプロジェクト	会員数:10
	⑫	ながの環境団体大集合スペシャルプロジェクト⇒中止	-
	※事業者・団体の会員数は1と数える。また、複数のプロジェクトに所属している者は両方で数えるので、全体の会員数とは一致しない。		
活動実績	実施期間	内容	人数
	R2.6~R3.5	生ごみ削減・再生利用プロジェクト	304
	R2.6~R3.5	市民の森づくりプロジェクト	345
	R2.6~R3.5	太陽エネルギー普及促進プロジェクト	-
	R2.6~R3.5	聖山自然復元プロジェクト	-
	R2.6~R3.5	子どもの環境学習支援プロジェクト	82
	R2.6~R3.5	ながのカーボンオフセットプロジェクト	-
	R2.6~R3.5	小生物の育成環境保全プロジェクト	542
	R2.6~R3.5	生態系豊かな、水に親しめる川づくり(水環境保全)プロジェクト	9
	R2.6~R3.5	ほんすけ育成プロジェクト	-
	R2.6~R3.5	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト	145
	R2.6~R3.5	田中さくら公園作り&里山づくりプロジェクト	244
	R2.8.6	令和元年度通常総会	106
	R2.6~R3.5	理事会	31
	R2.6~R3.1	地域まるごとキャンパス実行委員会(5回)	5
	R2.10.25	第24回長野市環境こどもサミット	1
	R3.2	令和元年度活動成果報告書「手をむすんで」発行	0
一年間の活動・参加者数			1,814
成果・課題	<<活動の成果>> ・12プロジェクトを推進。 ・活動成果報告書「手をつないで」を発行し関係団体へのPRや新規会員の勧誘時等で活用した。 ・ホームページにバナー広告を掲載。また、facebookを利用した情報発信を行った。 <<今後の課題>> ・環境保全活動の協働の推進(プロジェクトサポーター制度の推進等) ・会員の高齢化による活動力の低下が懸念されるため、市民・事業者・行政の協働による取組を更に推進するとともに若者や事業者を含む新規会員の勧誘を促進する。 ・ながの環境団体大集合が、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、中止となった。		
	・令和3年5月末現在の会員数:170 うち個人:140、事業者・団体:30 (令和2年5月末現在の会員数:182) ・ながの環境パートナーシップ会議の活動への参画者 平成21年度: 2,448人 平成22年度: 2,790人 平成23年度: 4,116人 平成24年度: 4,176人 平成25年度: 3,638人 平成26年度: 3,566人 平成27年度: 3,766人 平成28年度: 4,112人 平成29年度: 4,629人 平成30年度: 4,842人 令和元年度: 4,588人 令和2年度: 1,814人		

令和2年度活動報告書		12月31日		12月31日					
プロジェクト名	生ごみ削減・再生利用プロジェクト								
理想の街	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりが地球環境の悪化を懸念し、生ごみの削減・再生利用につとめ、排出量は以前と比べ大幅に減っているまち ・生ごみの大半がリサイクルされ再生利用システムの推進、可燃ごみが大幅に減少しているまち ・地域ごとに多くの市民が生ごみの減量化・再資源化に取り組む地域循環型のまち 								
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> ・可燃ごみに占める生ごみの割合を35%にする。 ・市が推奨する自家処理(水切り・堆肥化)を2つの住民自治協議会との協働で維持できた。 ・キッズ生ごみ農園クラブの年間家族会員20家族が、台風19号及び新型コロナの影響により8家族に減った。被災した農業機器を修理し、ミズコンポスト2号機を完成させて生ごみ堆肥約5000を製造し農園に活かした。 								
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ①生ごみ削減・再生利用の啓蒙・啓発キャンペーン活動は、新型コロナウイルス対策のため展示が全て中止、講習会は1件のみとなった。 ②市生活環境課とみどりの市民の協力による講習会は、コロナ対策のため中止となった。 ③「キッズ生ごみ農園クラブ」の活動は、台風19号被害からの復活のため、農機具を修理し、圃場の整備復及を一からやり直した。ミズコンポストの2号機を製作することによって、より多くの生ごみを受け入れられるようになり、圃場で使う窒素肥料はほぼ賙えるようになった。④市民の森プロジェクトの協力により、台風19号で流されたベンチを新調することが出来た。新型コロナが収束したら、市民と若者の交流の場として準備できた。 								
活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ①新型コロナウイルス対策のため信州環境フェア・アモーレフェスタの展示等全てのイベントが中止となった。 ②安茂里自治協にて「生ごみ実践減量講座」は実施できた。参加者18名。 ③キッズ生ごみ農園クラブの会員は、台風19号の被災及び新型コロナウイルスの影響により8家族に減った。 ・ミズコンポスト1号機を補修し、2号機を製作して生ごみの受入れ体制を整え、堆肥が増産出来た。 ・圃場の整備復旧作業は、会員及び他のプロジェクトの協力を得て、長い目で進めることにした。 								
活動	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数	
	6	6	大根掘り・豆の種まき・支柱立て	11	12	3	大根・秋野菜販売	2	
		7	サラダ菜・絹サヤ等収穫・草取り	7		7	物置鍵取付工事	1	
		14	農機具運搬・ハゼかけ設置・片付け	3		8	ミズコンポスト2号機材料調達	1	
		15	麦刈り・ハゼかけ	4		15	おでん大根収穫	1	
		16	麦刈り・黒小豆種まき・コンポスト切り直し	1		16	おでん大根収穫販売	1	
		20	麦刈り・耕運作業	2		21	鍵取付工事・コンポスト攪拌	1	
		21	麦刈り・苗植付け・草取り	6		27	新ヒタビー5の資料確認	2	
		24	麦刈り・脱穀	2		29	水タンク設置と鍵取付	2	
	7	4	麦焙煎・ナス苗植付け	2	1	7	会計中間監査	2	
		5	麦茶バック詰め	2		13	ミズコンポスト2号機の製作開始	2	
		7	草取り・種まき追加	1		20	温床に春野菜の種まき	1	
		12	草刈り・ジャガイモ試し掘り	3		22	玉ねぎの追肥	2	
		16	草刈り・草取り	3		29	コンポストに防腐剤塗布	2	
		18	もち麦脱穀	2	2	5	ミズコンポスト2号機の基礎工事	2	
		21	麦茶焙煎・草取り	3		6	ミズコンポスト2号機の製造工事	2	
		22	麦茶バック詰め・収穫祭準備	7		12	ミズコンポスト2号機の製造工事	2	
		24	午前ジャガイモ収穫祭・麦刈り	30		21	麦踏み体験・菊芋掘り・同上	6	
		24	午後ライ麦刈り・脱穀	7		28	堆肥の熱乾燥装置の材料調達	1	
		31	黒小豆畑草取り	7	3	5	農場お祝い・麦踏み・2号機屋根作り	5	
	実	8	1	安茂里自治協生ごみ減量講座	20		6	堆肥切り直し・ブラごみ拾い	1
			7	草取り・トウミ掛け	2		9	耕運作業	1
			11	黒小豆畑草取り	2		15	2号機に藁ストック棚作り	1
		12	黒小豆畑草取り・誘引	1		16	温床にナス・トマト種まき	1	
		17	黒小豆畑草取り・誘引	5		23	種ジャガイモ植付準備・堆肥作り	2	
		19	耕運作業・草刈り	4		27	種ジャガイモ植付・枝豆苗床・草取り	12	
		21	ミズコンポストの堆肥篩い	1	4	4	玉ねぎ追肥・草取り・草もみ耕運作業	2	
		30	黒小豆収穫	4		10	決算報告の準備	1	
		9	1	草刈り・畝作り	2		12	信大地域環境演習ガイダンス	4
		5	秋野菜種まき	3		16	耕運作業・種まき準備・堆肥準備	2	
績		6	黒小豆収穫・中島菜種まき	2		18	枝豆植え付け・春野菜種まき	7	
		16	黒小豆収穫・草取り	4		24	堆肥の熱処理装置製作・耕運作業	2	
		17	黒小豆収穫・ニンニク植付け・施肥	3		25	市民の森よりベンチ材料提供・設置	4	
		24	落花生草取り・鉄板囲い	2		30	春野菜の苗綿半より提供	2	
	10	3	秋野菜うろ抜き・草取り	3	5	1	春野菜の苗植付け	4	
		9	もち麦精麦	3		6	枝豆苗植付け	1	
		11	朝市出店	1		8	夏野菜苗仕入れ・バセリ植え付け・草取り	2	
		16	堆肥切り直し・サツマイモ試し掘り	1		10	豆植え付け準備・草取り	1	
		18	サツマイモ・秋野菜収穫・草取り	6					
		29	サツマイモ収穫・堆肥整理	2					
	31	玉ねぎ苗植付け・秋野菜収穫	5						
	11	3	耕運作業	1					
	9	玉ねぎ植え付け追加	3						
	15	大根掘り・秋野菜収穫	11						
	21	大根・菊芋掘り	5						
	23	大根・秋野菜の収穫祭・麦種まき	17						
一年間の活動・参加者数								304	
成果課題	<p>《活動の成果・課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果としては、台風19号の水害から復旧し、スタッフの頑張りで農場の整備が進み、生ごみ堆肥の量産化と共に農作物の栽培環境を充実出来たことです。特に生ごみをたい肥化するミズコンポスト2号機を製作し、生ごみを持ってきた家族会員に生ごみ堆肥を提供する事が出来るようになり、食と農の循環システムが動き出しました。一方で生ごみ堆肥化の啓蒙活動や収穫祭の一般参加者公募がコロナ対策により阻まれて、新規会員の増員が見込まれず8家族に減少したままです。 ・そこで、コロナ対策による自粛生活が内食の増加や食品ロス見直しにより、生ごみの減量を目に向けて、どのような発信が有効かを考えることが必要です。特に我々高齢者が苦手としているSNSやインターネットによる情報発信を積極的に使うにはどうしたら良いかというのが課題です。 ・環境だけでなくSDGsの面から、生ごみ減量生活が持続可能な社会に繋がることを伝えたい。 								
長野市協力課等	取組内容								
生活環境課	定例会にて協議フォロー、信州環境フェア・キッズ農園のイベント補助など								

令和2年度活動報告書



プロジェクト名

市民の森づくり【リーダー:片桐 勝治】

理想の街
四方を山に囲まれた長野市には手入れされた里山があり、そこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。人々はこの里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができるまち

数値目標
前年以上の市民、他団体との連携を図る
市民の森づくりに500人以上の参加者を得る
安全作業に徹し、“ゼロ災”とする

行動計画
・里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、多くの人に参加してもらい、森林整備、林業講座、自然観察会、山遊び、学習会、など多様性に富んだ活動を行い、また活動の広がり検討を重ねる。
・地元住民との交流や多くの他団体、個人、事業者との連携を図る。
・参加人数の増加も大切な事ではあるが、本会としては、安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業にあたる。

活動計画
・森林整備(6~12月、4、5月)
・趣味の林業講座(6~9月)
・秋の里山散策(10月)
・高校生の森林整備体験、工作体験、自然観察(6月、8月、10月)
・里山遊び(かんじき体験)(3月)
・きのこの駒打ち体験(4月)
・仮称第二の市民の森候補地の実施計画立案
・事業者、他団体との協力、連携を図る

月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
	25	定例会議	6	1	11	森林整備作業	6
7	18	森林整備作業(定例外日含む)	21		28	定例会議	8
	29	定例会議	8	2	21	かんじき体験会(中止)	
8	6	市民の森総会(リモートにて実施)			25	定例会議	6
	8,23	森林整備作業(定例外日含む)	26	3	25	定例会議	6
	28	定例会議	8	4	10	森林整備作業(定例外日含む)	18
9	12,27	森林整備作業(定例外日含む)	33		25	きのこの駒打ち(体験会は中止)	17
	24	定例会議	8		26	定例会議	7
10	14	北部高校森林整備体験	23	5	8	森林整備作業	9
	24	森林整備作業(定例外日含む)	16		23	森林整備作業(定例外日含む)(予定)	20
	25	秋の里山散策	28		27	定例会議	10
	26	定例会議	5				
11	14,29	森林整備作業(定例外日含む)	20				
	25,28	定例会議他	16				
一年間の活動・参加者数							345

成果・課題
 <<活動の成果>>
 本年度は、高校生の森林整備体験、里山散策は出来たものの、かんじき体験会、きのこの駒打ち体験会、山の日ウォーキング等での工作体験、趣味の林業講座(伐木造材補講のみは実施)など、コロナ禍の影響で軒並み中止や一般参加の取止めとなってしまった。従って、活動参加者は目標の500名を達成する事が出来なかった。しかし、環境保全研究所との協働にて「環境保全研究所の森の整備」を実施して行く事となり、他団体との協力連携が一步進んだ。
 <<今後の課題>>
 活動参加者の固定化傾向のある中、更なる活動の広がりや、活動の多様性を考えると会員数の増加は必要である。他のチームなどとも協力し、体験会なども活用の上、活動の輪を広げて行きたい。安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業を進める。

長野市協力課等	取組内容
森林農地整備課	森林整備、林業講座(補講)

令和2年度活動報告書



プロジェクト名

子どもの環境学習支援

理想の街

こどもエコクラブで主に小学生が親と一緒に活動し、中高生になったら「ユースクラブ」で自主的に環境活動をおこない、環境団体との連携も図られているまち

数値目標

第9回国際ユース環境会議の参加者16名(ユース10名)

行動計画

第9回国際ユース環境会議を開催し、ユースと環境団体との連携を図る

活動計画

第9回国際ユース環境会議開催のための活動
 ・開催要項の作成、後援依頼、
 ・現地下見、
 ・チラシ作成、配布
 ・報告書作成、送付など

活動実績

月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
6	8	例会	4				
	21	Zoomで例会	6				
	27	Zoomで例会	6				
7	10	Zoomで例会	4				
	19	例会	8				
8	4	錬成センター下見	3				
	28	Zoomで例会	6				
9	11	チラシ印刷・配布	3				
	25	最終打ち合わせ	6				
10	3	長野で国際ユース 145	16				
	4	小田切で国際ユース環境会議	14				
11	9	反省会	6				
一年間の活動・参加者数							82

成果課題

《活動の成果・課題》
 1 成果 2020年10月3～4日の日程で、国際ユース環境会議を開催した。3日は市内の会場と東京、広島など県外からのZoom参加も含めて16名で、「ゴミって何？」をテーマに身近から世界まで幅広く考え、英語で発表した。班毎のワークショップで「ポイ捨てを減らすには」を討論し意見発表の後、フィリピンのゴミ山の子どもの紹介があり、世界ではゴミが大きな社会課題となっている現状を学んだ。4日は小田切の錬成センターに集まり、脱プラの素材として竹を用いて昔ながらの遊びの竹とんぼを作り飛ばした。昼にはシカなど野生動物の現状を学び、シカ肉でBBQを楽しんだ。午後には2日間の学びを「未来への手紙」としてまとめ、来年への希望をつづって解散した。 コロナの流行下でもLINEやZoomでの例会や打ち合わせすることで学業で忙しいユース間の連絡連携を図ることができた。また、本番でも東京など県外のユースの参加も得ることができ、次回の国際ユース環境会議の企画への参画の端緒を築くことができた。
 2 課題: 今年も国際ユース環境会議をユースの熱意で開催できたが、支援メンバーの不足など長期的な支援と継続の仕組みを確保する必要がある。オンラインを活用して長野市外や県外などへの普及と働きかけが今後の課題である。

長野市協力課等

取組内容

令和2年度活動報告書		15 緑の豊かさを 守ろう	17 パートナーシップで 目標を達成しよう					
プロジェクト名	小生物の育成環境保全プロジェクト							
理想の街	オオムラサキの里(竹ノ入)の学習林としての環境整備を進めて30年近くになり、当初の目的に近づいてきた。各学校の総合学習、コミュニティスクールを通じて環境教育の啓発に学校から認められてきている。近隣の住民からも環境整備の応援を頂くようになった。オオムラサキ・ジャコウアゲハ・アサギマダラ・アゲハチョウなど随時観察できる環境になってきている。癒しの森として次世代につなげたい。							
数値目標	里山の生物全体の育成環境整備に努めカブトムシ・クワガタムシの発生を促す。また、フクロウの生息が確認できたので巣箱をかけて定着をはかる。							
行動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 竹ノ入に生息する生物の調査を進めるため観察用カメラを設置する。 2. カブトムシ・クワガタムシの育成床を設置し、拡充を図る。カブトムシは既に設置し昨年は50匹ほど発生した。 3. 生物の頂点にいるフクロウの定着を促すため巣箱を増設する。 4. 巨木になったエノキの間伐をして空間を増やし、光が入る明るい森にする。迷惑木、外来種のニワウルシの除伐をさらに進める。 5. 各小学校に設置したオオムラサキ育成塔の整備を図り随時観察できる環境づくりをしてきた。子供たちが関心をもつような誘引施設の拡充と定着を図る。環境教育の原点はここにあると思う。 							
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オオムラサキ観察会の実施 2. 竹ノ入に生息する生物の調査。 3. カブトムシ・クワガタムシの育成床の設置。 4. 生物の頂点にいるフクロウの定着を促すため巣箱を増設。 5. 巨木になったエノキの間伐をして空間を増やし、光が入る明るい森にする。 6. 各小学校に設置したオオムラサキ育成塔の整備。 							
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
	6	24	テント設置作業	8	3	12	竹ノ入除伐材整理作業	2
	7	2	松代幼稚園観察会	68	3	14	竹ノ入除伐材整理作業	2
	7	3	東条小学校観察会	57	3	16	オオムラサキ幼虫保護袋作り	4
	7	3	まきば保育園観察会	97	3	24	竹ノ入草刈り作業	3
	7	5	一般市民対象観察会	193	3	25	除伐材整理作業	3
	9	8	テント撤収作業	3	3	26	エドヒガン観賞用階段手摺設置	3
	9	9	定期総会 事前会議	9	3	30	転落防止柵設置作業	2
	9	13	定期総会 伝承館	19	4	1	松代各小学校幼虫保護作業	4
	11	29	飼育舎網外し	4	4	3	飼育ハウス網掛け作業他	7
	2	7	観察会用幼虫捕獲作業	4	4	4	竹ノ入エドヒガン鑑賞会	14
	2	16	フクロウ用巣箱掛け作業	4	4	6	西条小学校エノキ調査	3
	2	27	竹ノ入除伐材整理作業	4	4	7	西条小学校幼虫網掛け	3
	3	8	竹ノ入除伐材チップ作業	3	4	8	ウマノスズクサ、フジバカマ草取り	2
	3	9	ウマノスズクサ捕植作業	3	4	13	松代各小学校幼虫調査	3
	3	9	フクロウ用巣箱掛け作業	3	4	25	活動方針打合せ会議	8
一年間の活動・参加者数							542	
成果・課題	<p>《活動の成果・課題》</p> <p>学校が総合学習・コミュニティスクールの時間で利用して頂けるようになった。近くのまきば保育園が随時園内に入り利用していただけるようになった。遠方の松代幼稚園もオオムラサキの見学に訪れ自然保護教育の一助になってきている。最近親子連れの訪問者が来るようになり、お土産にカブトムシをあげたりしている。課題は随時園内に入れるよう安全・安心の森作りに務め、生息する生物の「見える化」に取り組む。また、高齢者集団の中に若い集団が参画しやすい組織のありかた、雰囲気作りに取り組む遊び心が必要である。</p>							
長野市協力課等	取組内容							

令和2年度活動報告書								
プロジェクト名		生態系豊かな、水に親しめる川づくり 【リーダー:酒井 今朝重】				 		
理想の街	市街地を流れる川には清らかな水が流れ、多くの生き物が生息し、周辺を散策する人々が心地やす水辺を備えた町							
数値目標	① 生態系豊かで、水に親しめる川づくりの活動に向けた、行動方針を検討する。 ② ながの環境パートナーシップ他の団体の活動に協力する。							
行動計画	① 長野市主催の環境学習会水生生物調査「夏の川遊び1, 2」への協力 ② 市内に建設されている親水公園・水路の現地確認を実施 ③ 公開学習会2021及び第10回ながの環境団体大集合への参加							
活動計画								
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
	7	23	水生生物調査「夏の川遊び1」	3				
			荒天のため開催中止					
	7	31	水生生物調査「夏の川遊び2」	3				
	10	4	市内の親水公園・水路の現地確認	3				
一年間の活動・参加者数							9	
成果・課題	プロジェクトチームの活動復活及び新規事業開発を検討したが新年度への継続となった。							
長野市協力課等			取組内容					

令和2年度活動報告書

プロジェクト名

ゴマシジミ保護・育成【浅川地区住民自治協議会】



理想の街 「ふるさと創生」活動の一環として地区内住民の意識の高揚とボランティア参加の醸成を図り浅川の特徴である中山間地と平野部の融合を徐々に深め、また子ども達からお年寄りまでの交流を図り次世代への財産として繋がればと考えている。まちづくり計画に位置している「ゴマシジミの保護・育成」をどうして里山の整備、自然環境の保全の大切さを学んでいければと継続的な活動を行う。

数値目標 1) 小・中学生を含め地元愛好家・ボランティア組織の参加を仰ぎ年間延べ200名位を目安に活動を行う。
2) 生息地の植栽(ワレモコウ)を延100名位で行う。
3) 生息地のパトロールを7月25日から8月末まで巡回パトロールを行う。(延80名)

行動計画 ・他動植物との関連
・シワクシケアリの発見
・ワレモコウの発芽と植栽
・各関係機関と協力し共生昆虫の調査を行う

活動計画 ・ワレモコウの栽培(現地採取の種をまき栽培)4月中旬
・生息地の草刈り間伐(年間4回)
・生息地のパトロール(ローテーションによる)「7月末～9月中旬」

活 動 実 績	月 日		内容	人数	月 日		内容	人数
		5	1	草刈り	7	9	4	ゴマシジミ生息調査
	6	25	草刈り	7	9	9	ゴマシジミ生息調査	2
	7	27	看板設置(各エリア)	5	9	15	ゴマシジミ生息調査	2
	8	1	早朝パトロール(開始)	3	9	24	監視カメラ撤去作業	3
	8	4	ゴマシジミ生息調査(初確認)	2	10	7	看板・ロープ回収	7
	8	7	監視カメラ設置作業	3	10	18	ワレモコウ移植	10
	8	9	ゴマシジミ生息調査	2	10	29	浅川小チャレンジ勉強会	70
	8	10	ゴマシジミ生息調査	2	11	16	ワレモコウ種採取	3
	8	11	ゴマシジミ生息調査	2				
	8	17	ゴマシジミ生息調査	3				
	8	18	ゴマシジミ生息調査	2				
	8	20	ゴマシジミ生息調査	2				
	8	23	ゴマシジミ生息調査	2				
	8	25	ゴマシジミ生息調査	2				
	8	28	ゴマシジミ生息調査	2				

一年間の活動・参加者数

145

成果・課題 <<活動の成果・課題>>
生息数は現状維持(1日最大23匹の個体を確認)だったが、活動をつづけ生息環境の観察とゴマシジミの生態系の研究を更に取り組み将来への布石としたい。また地元の資産として子供から大人まで感心をもってもらい継続性のある活動を目指したい。そのために浅川小の児童の育てたワレモコウを移植する活動等行う。

長野市協力課等	取組内容
長野市開発公社	長野市霊園での保護活動
浅川小学校	ワレモコウの育苗・植栽

令和2年度活動報告書		15 緑の街づくり	17 グリーンアップ 目標を達成しよう						
プロジェクト名	田中桜公園作り&里山づくりプロジェクト								
理想の街	若槻地区田中の桜公園作りを推進力に里山を里山らしく利用、保全を行う活動を展開することで、自然災害に強く、後継者も育ち定着する持続可能な地域作り・協力し支え合う地域・まち								
数値目標	参加目標250名								
行動計画	(前期)「こういう風な散策路を作りたい」と思える構想を練る。次に、構想の固まった部分から散策路を実際に作り始める。8月、昨年度の学生ボランティア団体が今年も来ることになれば、一緒に散策路設置整備の活動に参加をお願いします。今年は、夏崎の花壇づくりを行うとともに、春咲きの花壇も充実するように花壇づくりを行う。また、東屋づくりの計画を練る。 (後期)冬場は桜公園祭りの準備をしながら春を待つ。3月初め、散策路づくり・いのしか被害防止のためネットで差黒の樹皮を守る。4月桜祭り実施。								
活動計画	案の募集 設計 検討 作成を一貫しておこなう。 桜公園の整備、斜面の断裁、伐採樹木の未処理・積み上げ状態の解消を行い、遊歩道設置を進める。特にベンチや階段の作成設置をすすめる。								
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数	
	6	6	桜公園花壇ドーム菊苗植え	5	4	1~18	桜祭り	140	
		15	コロナ禍による計画変更検討	3					
	7	中旬	コロナ下での計画変更会員意見収集	40					
		20	計画変更協議決定	5					
	9	7	秋の作業計画実行案作成	3					
	10	12	秋の作業計画準備検討	4					
	11	1~3	雑木・つるの伐採処理	5					
		7,8	伐採木の処理	12					
		14~23	パワーショベルで切り株伐根	36					
		28,29	整備作業とベンチづくり	10					
		2	8	春の作業イベントの計画立案	3				
		3	20,21	整備作業	10				
		27,28	田中桜公園だより作成配布	2					
		27,28	階段設置作業	6					
一年間の活動・参加者数							284		
成果	(成果) 本年度、予算をいただき、①雑木やツタの除去・切り株の除去・散策しやすいようになだらかに整地をすることができた。②整備のために切り倒した気を使ってベンチを設置。そして、階段も設置。と、より公園らしい整備を行うことができた。また、春咲きの草花の花壇に、菊を植えて秋も楽しめるようにしたこと。								
課題	(結果) ①となり地区にある保育園の年長児の散歩コースになった。 ②コミュニティ若槻の会報で、「グリーンクラブで育てた苗が、桜の名所・田中桜公園に植えられた」などと取り上げていただき、桜の木の成長と公園整備が相まって、広く認知されてきた1年だった。 (課題) コロナ禍の中、作業・イベントの工夫が求められる。								
長野市協力課等	取組内容								